

今年の3月から、すっかり影を潜めている新型インフルエンザ。国立感染症研究所の最新の一週間（6～12日）の調査では、全国約5千カ所の定点医療機関を受診したインフルエンザの患者数は、1医療機関あたり0・04。新型インフルのほか季節性のA香港型の割合も多い。シーズンに入つたといふ自安は、1医療機関あたり1を超えたときなので、まだ流行の始まりといえる段階ではない。警報

新型、春以降も集団発生散発

レベルはこれが30を超えたときだとされている。ただし今月、千葉県内の幼稚園で新型インフルが流行し、休園となつた。東京都と山梨県、7月に奈良県、8月には千葉県の大学であり、学生寮や合宿などで感染が広がったケースが多い。

医療機関では、インフルワクチンの予約を受け付けが、あちこちで始まっている。東京都江東区の「のすえ小児科」では、15日からワクチンの予約を開始したところ、3日間で1千回分の予約が入った。この小児科が園医を務める保育園で、昨季は集団接種を試みた。

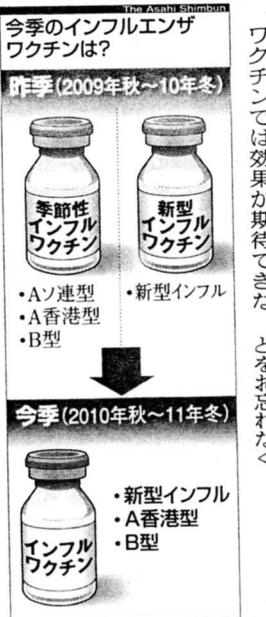
■今季のインフルワクチンの接種回数と量
(厚生労働省の資料から)

対象年齢	接種回数	接種量
1歳未満	2回	0.1ミリットル
1歳以上 6歳未満	2回	0.2ミリットル
6歳以上 13歳未満	2回	0.3ミリットル
13歳以上	1回	0.5ミリットル

病気などで免疫力が落ちている人には、13歳以上でも医師の判断で2回の場合がある。

A その値段を参考に自治体が上限額を定める。それを超えない範囲で医療機関も自由に価格を決める。地域や医療機関の考え方により少し価格差があるだろう。住んでいる自治体やかかりつけ医に問い合わせてみてほしい。

Q 季節性のワクチンの場合、65歳以上の高齢者などには昨季ま



ワクチン 今季は「十分」

新型・季節性1本で対応

Q いつから、どこで接種を受けられるの？

A 10月1日からだ。ワクチンがメーカーから届いて準備ができる診療所や病院で打てる。医療機関によって始める日は異なるが10月中旬までに始まるはずだ。昨季は新型と季節性の2種類打つ必要があったが、今季は新型と季節性とワクチンが一本化されたので1種類で済む。

A 昨季は全国どこでも同じ料金だったけれど、今季は市町村が値段を決めることになっている。自治体によって値段に違いが出るかも知れない。国は一応の「目

Q 高齢者はワクチンを打つべきなのかな？

A 新型も季節性も同じだけれど、高齢者はかかると重症化やすいといわれる。それを防ぐためにも、ワクチンは有効といえる。

Q ほかに、料金で昨季と違うところはある？

A 予診料がかかる自治体がある。身体の都合で、当日の診察後に接種を受けられないといわかった場合にお金を支払わなくてはならないところもあるかもしれない。

Q ほかに、料金で昨季と違

う。昨季と今季でワクチンの値段に大きな差がないように、それぞの市町村が調整しているんだ。昨季と今季でワクチンの値段に大きな差がないように、それぞの市町村が調整しているんだ。

A 昨季までは、65歳以上の高齢者と、60～64歳で心臓や腎臓の機能が落ちている人などは「1人1千円」などの自己負担額で打てた。昨季と今季でワクチンの値段に大きな差がないように、それぞの市町村が調整しているんだ。

Q 子どもたちが、ボリオなど定期、インフルエンザ菌b型(ヒブ)やおたふく風邪など任意の予防接種の予定もある。インフル

と、どちらを優先させればいい？ 接種を勧めるよ。

Q 予約がどれない」という騒ぎにはならないかな。

Q 昨季みたいに「足りない」ところ、需要見込みは4460万～5340万回分(健康な成人は1回接種)。これに対してもメカの供給量は最大約5810万回分で、「十分な量がある」としている。昨季は複数予約した人が接種を受けた後、ほかを無断牛ヤンセルし医療機関が混亂した。

Q 今季はそういうことがないよう

に、「キヤンセルの電話を入れて欲しい」というよ。

Q 確か、昨季の新型ワクチンがたくさん余っていたよね。使われても大丈夫なの？

A 有効期限内なら問題はないよ。ただし、効き目が期待できるのは、新型インフルに限られるところをお忘れなく。

Q 予約受け付けが、あちこちで始まっている。

東京都江東区の「のすえ小児科」では、15日からワクチンの予約を開始したところ、3日間で1千回分の予約が入った。この小児科が園医を務める保育園で、昨季